



# 鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

## パウロの言葉

「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです」

聖書(第1コリント書12章26節)

牧師 河合裕志

パウロはここで私達人間の体についていろいろと述べている。「体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています」。これはその通り、そしてどの部分も大事だよ、とすることを展開して行く。

「もし体全体が目だったら、どこで聞きますか。もし体全体が耳だったら、どこにおいをかぎますか」。これはその通り。目も耳も鼻も大切な役割を持ち必要欠くべからざるもの。更に言う。「目が手に向かって『お前は要らない』とは言えず、また、頭が足に向かって、『お前たちは要らない』とも言えません」。

目は手より高い位置にあるのでつい高ぶって「お前は要らない」と、頭も足より上にあるので傲慢になって「お前たちは要らない」ということになるということか。手や足がなくなったら大変に困ることも知らないで。

そしてパウロは言う。「体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです」。体の中で他よりも弱く見える部分とは何を指すのか、よくわからない。仮りにそう見える部分があったとしてもそれは「かえって必要なもの」。とに角全ては必要なものには違いない。

以上のことからパウロは何を言いたい？

それは「キリストの体」と言われる教会について言おうとしている。信徒一人一人はキリストの体＝教会につながっている部分部分。一人一人、違った個性、能力を持っていてキリストの体にとってなくてはならない存在。お前なんかいらぬ、なんてとても言えない。かえって弱く見える部分・人が必要。

肉体が弱い、精神が弱い、信仰が弱い、経済的に困難を覚えている、年をとっていろいろと不自由……。こうした人がかえって必要。そうすると「各部分が互いに配慮し合う」ようになる。「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しむ」、この事が大きく期待される。「一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶ」、喜びも一緒に味わう。パウロはこのような教会を思い描き期待した。

このデッサンは家庭、社会、学校、地域社会、国全体に願われることでは？ 人の苦しみをわがことのようにして苦しむ。そして少しでもその人に寄り添い、お支えをする。その人が何かのことで喜んでいようならこれを共に喜ぶ。そんな私、そんな社会になれば幸い。

### 集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時

お話し会、(面談)：水曜日午後1時～7時